

わたしはいつもあなた方とともにいる

主任司祭 吉池 好高

余寒の続いた今年の春、4月8日に復活祭を祝った教会の典礼の暦は、5月27日の聖霊降臨の祭日まで、復活節の喜びの中にあります。

復活祭に続く復活節の主日のミサの中では、復活された主の弟子たちへの現われを語る福音が朗読されました。十字架の上に死んで逝かれ、墓に葬られたイエスは、墓を開いて復活されたということを語るだけで、福音書の記述が閉じられていたとするなら、福音書の主人公であるイエスは、神話の中の人物ということになってしまっていたことでしょう。復活されたイエスが、あの時の弟子たちの現実の中にご自分を現してくださらなかったなら、そしてその後の彼らの人生を、それまでとは根本的に変えられた生き方へと導いてくださらなかったなら、福音書の中のイエスを主と信じるキリスト教の信仰は生まれなかったことでしょう。

教会に伝えられてきた私たちの信仰は、それが一見、いかに神話のように見えようとも、神話に基づいているではありません。恐れにとらわれ、悲嘆にくれる弟子たちにご自身を現してくださったことによって、福音書の中に語られているイエスは、弟子たちが生きた現実の地平の中に来てくださったのです。こうして、福音書の中のイエスは、その全てをもって、すなわち福音書に語られているとおりの、肉の体をもって生きられたお方として私たちが生きる地平にそのお姿を現してくださったのです。十字架の死に終わるそのご生涯によって私たちの救い主となってくださったお方として、私たちの人生とも出会ってくださったのです。何故なら、私たちは、イエスの復活の証人とされた弟子たちの宣教から始まった教会の信仰を受け入れることによって、福音書の中に語られているイエスを、私たちの主と信じる者たちとなったからです。復活節はこのことを思い巡らす時です。復活された主が弟子たちを満たしてくださった喜びを、私たちも期待してよいのです。「わたしは世の終わりまで、あなた方とともにいる。」と言われた復活の主の力強いみことばは、この過酷な現実を生きる私たち一人ひとりの上にも響いているのです。